

長野県の概況

長野県の森林は県土の78%を占め、地域ごとに特徴ある樹種から成る森林が構成されています。

北部と南部はスギ・広葉樹主体、木曾五木で有名な木曾地域はヒノキに代表され、中部と東部は標高が高く冷涼・小雨のため、ここを適地とするカラマツが広く分布し、芽吹きから柔らかな新緑から黄金色に輝く紅葉シーズンまで、信州ならではの景観を醸しています。

長野県は東西120kmに対して南北212kmと南北に長いので、地質・気候の面で南北の状況が大きく異なるのが特徴です。

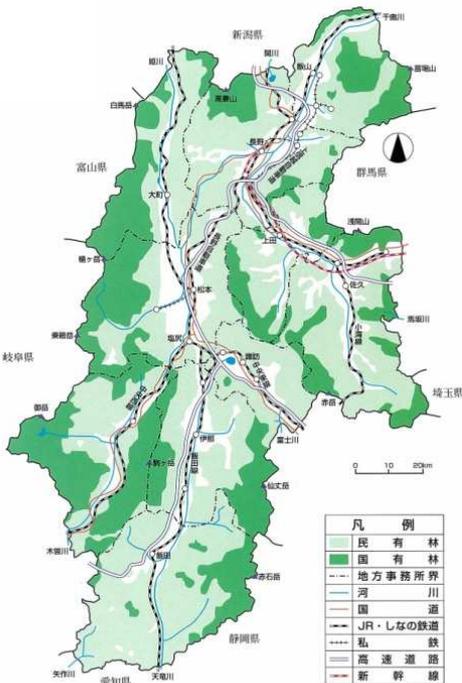
県北部は日本有数の豪雪地帯に属しますが、平成23年3月12日発生の長野県北部の地震（震度6強）により大きな被害を受けた栄村では、地震により大規模な山腹崩壊とともに、雪崩や雪を滑材とした土石流が発生しており、今後の防災林造成の考え方について新たな課題も生じたところです。

県北部から中部にかけて分布する第三紀層地帯では、北へ行くほど層序が新しく固結度の低い地層となり、古くから慢性的に繰り返される地すべりへの対策を実施しており、とりわけ地下水の排除方法に腐心しています。

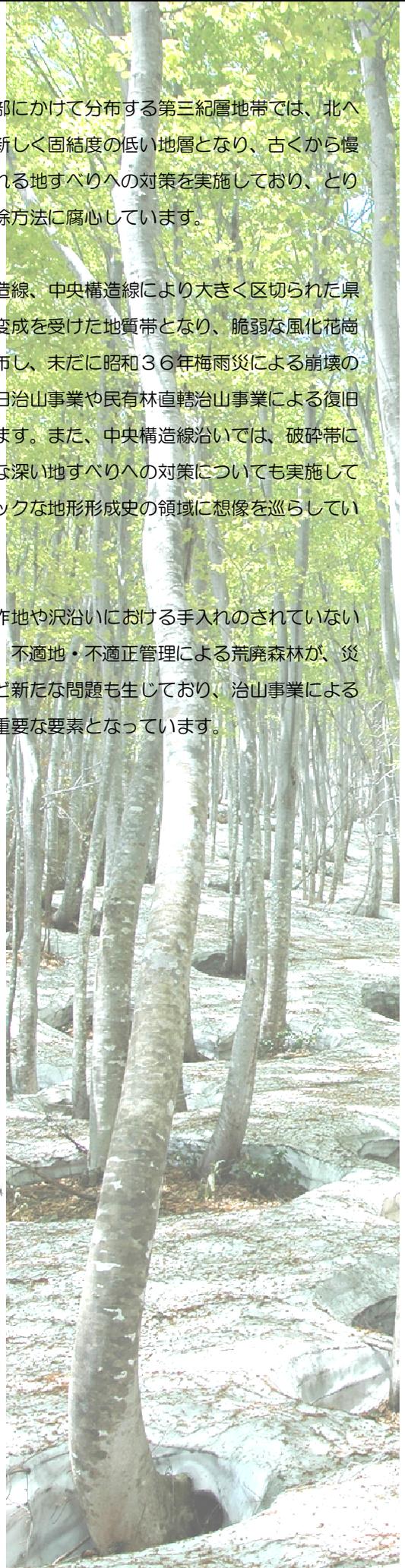
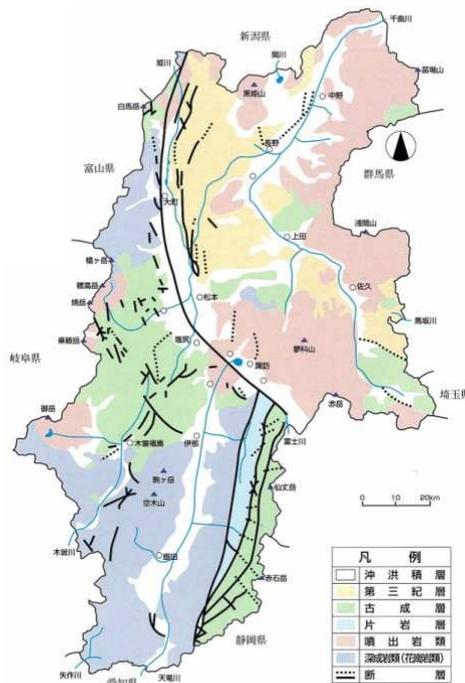
糸魚川静岡構造線、中央構造線により大きく区切られた県中部以南は広域変成を受けた地質帯となり、脆弱な風化花崗岩地帯が広く分布し、未だに昭和36年梅雨災による崩壊の爪痕に対し、復旧治山事業や民有林直轄治山事業による復旧が進められています。また、中央構造線沿いでは、破碎帯に起因する構造的な深い地すべりへの対策についても実施しており、ダイナミックな地形形成史の領域に想像を巡らしています。

近年は、旧耕作地や沢沿いにおける手入れのされていないカラマツ林など、不適地・不適正管理による荒廃森林が、災害を助長するなど新たな問題も生じており、治山事業による整備対象として重要な要素となっています。

地 勢



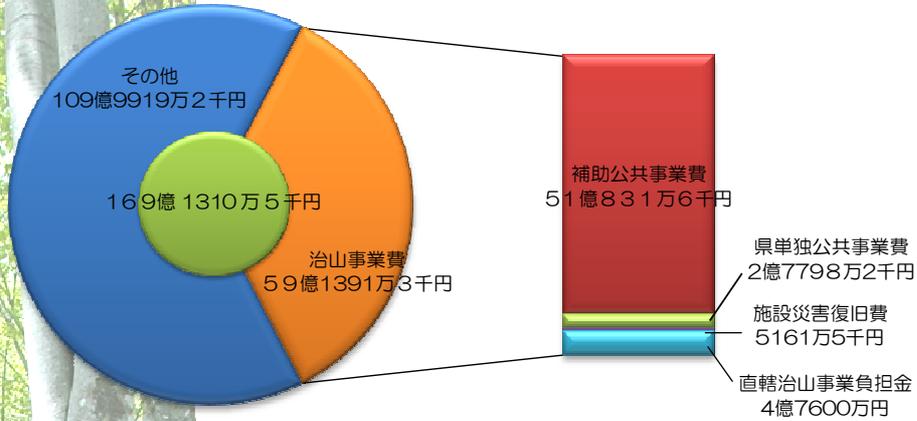
地 質



予算と実績

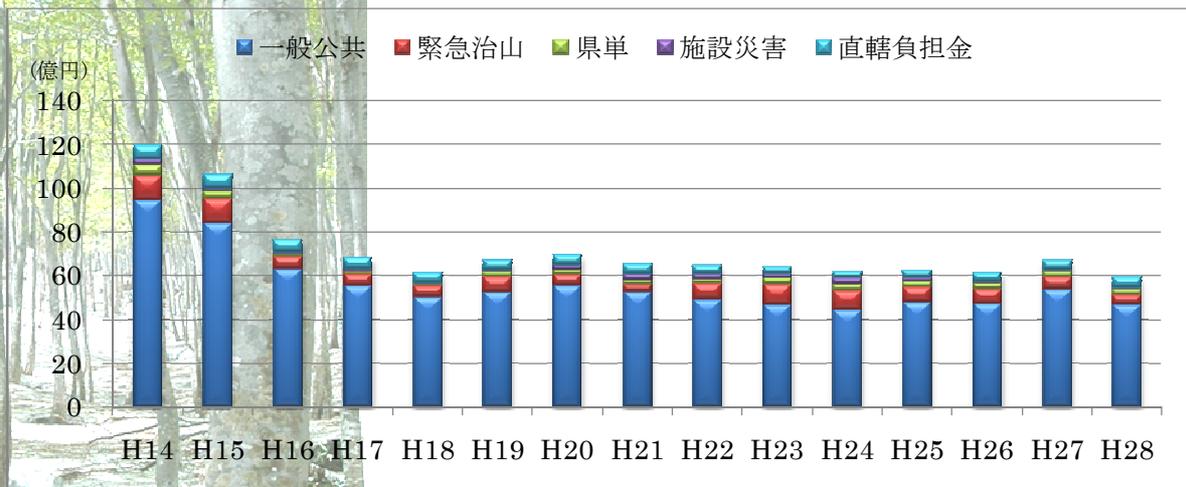
治山事業の予算（平成28年度）

森林・林業関係一般会計予算



治山事業の実績

当初予算額の推移



実績額の推移

